

適切な資金配分を見つけ出そう

「ハイリスクはハイリターン？」

(承前)さて、ではもう一度『Bグループの資産累計残高(10月号参照)』のチャートを見ながらさらに話を進めていくことにする。このチャートから私たちはもう少しだけ資金配分に関するアイデアを得られな

だろうか。もうお分かりだと思いが、20%の投資は30%の投資とほぼ同様の最終リターンをもたらしている。しかし「パフォーマンスの安定度」という観点から考えてみた場合、20%の方がより安定している。つまりこれは「パフォーマンスの安定度」には「資金配分」が大きく関係しているということではないだろうか。これまで世の中の通説として、「ロリスク＝ローリターン、ハイリスク＝ハイリターン」という公式が成り立つものとされてきたし、実際多くの人が「ハイリターン」を求めるがゆえに「ハイリスク」を取ってきた。しかし本当は「ハイリスク+ハイリターン」ところか「ハイリスク＝ローリターン(あるいはノーリターン)」であることを、このゲームの結果は示している。『資産配分による最終資産の変化』は「休みなし、常に買いポジションのみ」というルールで、投資額を0〜100%まで5%刻みで変化させた時の最終資産の変化を示している。このチャートを見れば、さらにリスクとリターンの関係がよく分かると思う。つまり「リスクとリターンの関係は、決して一般常識的に信じられているような正の相関を持つた直線ではない」ということだ。

「最適な資金配分は…」

これまでに述べてきたことから、最適なリターンを求めるには、その運用手法に応じた最適な資金配分が不可欠であるということが理解できたはずである。では、その最適な資金配分はいったい何を根拠として求めればよいのだろうか。

ここで再び『サイコロチャート(10月号参照)』と『Bグループの資産累計残高』を見て頂きたい。価格の動きと資金配分の違いによるパフォーマンスの変化を見比べた時に、「もし仮に資金がゼロになっても投資を続けることができたとしたら、最後にはプラスに回ったのではないか」という考えが湧いてくる。しかし、そんなことは実際には決してあり得ない話で、資金がなくなったら投資はそこでおしまいになってしまう。つまりここで考えられる最大のリスクとは、「運用資金がすべてなくなってしまう」とことだと考えられる。では何が原因で運用資金がすべてなくなってしまうのだろうか。

『Bグループの資産累計残高』をよく見て頂きたい。資金配分が高くなるにつれてパフォーマンスのボラティリティが高くなるのが分かる。そして下方への変動、すなわちドローダウンが大きくなり過ぎてす

べての資金を失ってしまった時、それでこの投資を終了せざるを得なくなってしまうというところに気付くだろう。つまり、最後まで投資を継続して最適なリターンを得るためには、最大ドローダウンが資金の総額よりも小さくなるような最適な資金配分を見つけ出さなければならぬのである。

どうやら、最適な資金配分を求めるための鍵は、この「最大ドローダウン」にありそうである。ではこの最大ドローダウンをもたらすものはいったい何なのだろうか。来月号で詳しく検討してみよう。⑤

